へら鮒 5月号

http://www.herabuna.cc/

May.2008 No.509

■■カラー■■

24 石井旭舟 へらぶな浪漫街道 《第六十四回》神奈川県 相模湖

32 小池忠教 激釣テクニカルアドバイス 《第4回》横利根川での撃沈 ゲスト・福冨大祐さん

40 生井澤 聡 挑戦者魂 《第5回》【千葉県・印旛中央水路】

46 中澤 岳 攻めの美学 《Case.4 戸面原ダム》豪雨の両ダンゴ深宙。

52 岡田 清 Deep Side Angle 《Vol.50》【独走"ゼロ"釣法】椎の木湖

58 早川浩雄「鉄壁・早川スタイル」《第10回》三島湖、春のバラグル深宙

★AREA REPORT

61 宮島池（千葉県） 本誌・伊藤洋一

62 63 邑知潟（石川県）、本庄池（福岡県） 山本一朗、河口正伸

64 筏川寄せ場（愛知県） 後藤 誠

水藻FC（大阪府） 前田誠志

134 竹竿の似合う釣り場 《第4回》亀山湖

138 杉山達也 ULTLA SPLASH 《第4回》野田幸手園〈メーターウドンセット〉

144 田辺哲男 MYへら道 《へら道その十三》「ホソ」で釣りたい！

150 小林恭之 ノルマでGO!! 《第4回》長竿ライトタックルで攻めろ!! 三和新池

156 天野正由 緑萌ゆる釣り場を巡る 《第4回》絶対釣ったる神流べら！ 神流湖・相模川

160 釣り人のお仕事 《第3回》ゲスト 國分 敬さん

▶今月の表紙◀
angler：棚網 久
field：富里乃堰
photo＆layout：本誌・里

193 《新連載》戸張 誠 激釣の余韻 《第2回》ヘチ狙いの失敗 横利根川

200 北川穂積 西の交友録 《第二十八回》ゲスト：藤井秀和 釣り場：加古川（兵庫県）

205 釣り味 《第15回》【北海道ラーメン】黒ゆりセット

206 釣果予想クイズ

208 フィッシングレディ 《今月のレディ》中山恵理さん 友部湯崎湖

■■モノクロ■■

66 特別企画 春だ！大会へとでかけよう！

74 へら鮒釣り 超基本講座 《第39回》お勧め野釣り情報編

86 ガチンコ道場 《第30回》春のトーナメントに向けて！

97 江成公隆のトーナメンター、復活への道。《Vol.71》底釣りゼミ2008 PARTⅢ

102 水辺のプラネタリウム 吉本亜土 《今月の星空》「大道商人」

106 最狂ヘラ戦士養成所"鮒の穴" 漢タカハシ 《第63回》東海支部長、モビー・デック登場！ ニセモノ大国中国のヘラエサで釣りまくれ!!

110 へら鮒Cafe 西田美明 《Vol.5》必要は発明の源！

12 特集

棚網 久が「牙」を公開！
富里乃堰で決める、
超速攻両ダンゴ底釣り。
全開MAXで
春の底を楽しめ!!

超攻撃型"全開"底釣り

釣り場割引クーポン券 p.163〜

野田幸手園 椎の木湖 清遊湖 谷和原大沼 上尾園
F.A吉羽園 谷養魚場 将監 柳生FP 筑波白水湖
泉堰 逆井HC 友部湯崎湖 三和新池 川越FC
鳥羽井沼 大上へら池 霧の沼 小川つり堀園 府中HC
清川つくしFC 千代田湖・舟宿 千和 相模湖・釣舟 五宝亭
相模湖・釣舟 天狗岩 吉森HC 甲南へらの池 当麻池
水藻FC 朝日池 釣り堀八十八 谷中園 浜野HC
精進湖・舟宿 金風荘 西湖・釣舟 白根 西湖 釣り宿 丸美
西湖・釣り宿 青木ヶ原

114 永久釣りバカ宣言。斉藤心也 《第5回》「トーナメントシーズン到来！」

116 水と戯れ、風と遊ぶ ホワイト 《第17回》去年の好釣、今年の憂鬱

118 野田幸手園新聞

128 新春プレゼント当選者発表

161 ワクワク管理釣り場情報

170 小売店情報

★へら鮒BOX

175 里ちゃんのイケイケ編集長雑記

176 情報発信基地

179 ボイス

187 コラム『日研だより』 日研広報部長・遠藤克己

188 コラム『上村流！』 上村恭生

189 コラム『紀州 想いの竹"のものがたり』 中峯伸行

190 プレゼント発表

191 広告索引

192 編集後記

STAFF

●発行人
根本百合子

●編集長
田中里史

●編集部
大場勝良
諸冨一秋
伊藤小百合
伊藤洋一

●へら鮒NET
根本大作
八十田昌広

●企画
〈オフィス・えふ〉
藤原 肇

※棚網 久「全開MAX」は、誌面の都合によりお休みさせて頂きます。

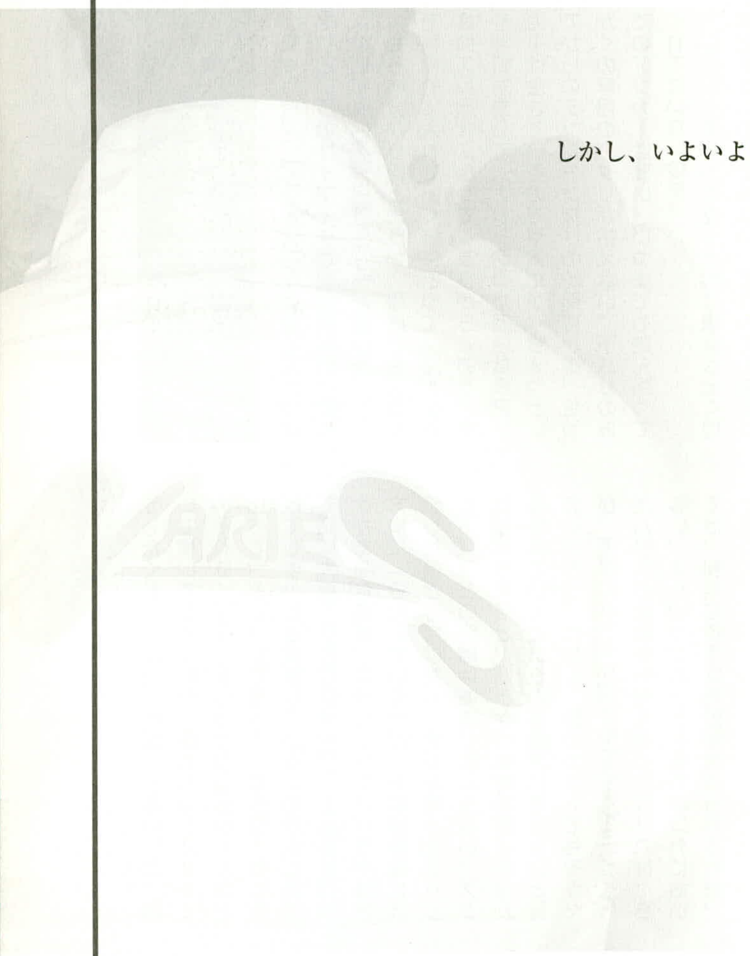
この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の
トーナメンター、
復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka

~~業界初、Web連動企画！…いよいよ再発進！　《URL》http://hesar.yokohamatsurumi.net~~

〈Vol.71〉
底釣りゼミ2008
PARTⅢ
～完結編～



3回目にして、底釣りゼミ2008は、はやくも完結編である。
早いな、と感じた。
しかし、いよいよ始まるトーナメントシーズンを前に完結させておきたい、という
江成の決意表明みたいなもんだろうか。
今月号の原稿も、江成にしてはアッサリとまとめられているが、
よく読んでみればそこかしこに底釣りの「核心」が潜んでいる。
…ところでアニキ、ウドンセットはバッチリなんでしょうねぇ！

by里ちん

続・下バリ、トントン？

前号で、「下バリトントンのつもりがかなりズレているのでは？」と書いた。長いハリスと「くの字」を組み合わせた結果だ、と。
そこで、今月はもう少し補足して書いてみる。
最初の底釣りゼミで北城氏は、「タナが深ければ深いほど誤測しやすい」と言っていた。これにはもちろん「くの字」効果も含まれるが、ミチイト全体のフケの増大や、ウキの戻りの悪化傾向も理由として挙げていた。
ミチイト全体のフケに関しては、フロートを使う・使わないで大きく違ってくるが、程度の差こそあれ、誤差は発生するということだ。その誤差を認識しないまま、戻りが悪くなったウキをいつもの基準の目盛まで出そうとズラしたとしたら、実際は何センチズラシ？…という話。これが、長いハリスを用いる段底流行以前の、オーソドックスなハリスでも「自称？トントン」で釣れていた時代の種明かしだと考えている。「微調整」という「おまじない」で、「何が変わるのか」を深く意識しなかった古き良き時代の真実ではないだろうか。
タナ取りの精度が上がり、限りなくトントンに近い設定を実現出来る釣り人が増えたのかもしれないし、先々月号から書いているように、へらの絶対量が減って、寄せ効果を強くする必要があったのかもしれないが、ハリスを長くしないとアタリがもらえない時代になってきつつある。が、これまで書いてきたメカを認識すれば、まわりに同じ釣りを選択するライバルがいない状況では、短い下ハリスで十分なケースが現在もなお存在することに気付いていただけるはずだ。

嫌われるテンション。

「テンションをかけたらアタる気がしない」のは、僕も感覚的には理解出来る。

へらの立場からすれば、不自然な状態に違いないからだ。しかし、「釣り人の都合とへらの都合のどこで折り合いをつけるのか」が、この釣りのパズルの最大のテーマであるわけで、なんでもかんでもへらの都合だけを優先していたら、釣りにならない。もちろん、まずはへらの都合ありきだが、激シブで選択するであろう段底という釣り方において、下バリのサイズが大きくなる近年の流行を見ていると、そこらへんのバランス感覚がニュートラルな釣り人が多くなってきていると感じる。逆に言えばこれは、「教科書通り」・「裏書き通り」で、あまり疑うことを知らない素直な釣り人が少なくなったということになり、とてもいいことである。

アタリが出るということは、テンションがかかっているからこその「伝達」の結果である。

厳寒期はたしかに吐き出しは遅いかもしれないが、と同時に、食った瞬間にハリスが張るほどの吸い込みや食いっ走りもそうそうないと感じる。やはり、たとえゆるやかであってもテンションはかかっているのだ。そこのところの認識を曖昧にしたまま感覚でものを言うと、混乱が起きる。テンション嫌い派は、「完全フリー」にはしない。しかし、最低限ギリギリまでテンションを落とす」と、言うべきではないだろうか。

ナジミ幅とズラシ幅と…。

先々月号で、「シメたバラケで深く入れっぱなしというのはイマイチ理解出来ない。これは後述する（次号以降にて）」と書いた。

もうお分かりだと思うが、段底でもズラシを積極的に入れていく僕にとって、深ナジミは即ズレ過ぎになってしまうからである。やや沖打ちをして、ナジみ切った直後ならアンカーは生きているので平気だが、ちょっとしてからのテンション抜けの時間帯が嫌。せっかくの早目のアタリが拾えない。下バリのみでのアンカーは弱い。いつまでも踏ん張ってくれてはいないのだ。

しかし、僕だってセット的な視点は全く理解出来ないわけでもない。どうしても締まったバラケを吊るしたい状況であれば、ズラシを少なくすればいいことだ。ただし、個人的にはやはり、ここでの僕の優先順位はあくまでもハリスの角度。そのためズラシは外せない。となると、僕の段底は、常に浅ナジミということになる。なぜなら、僕の中で段底は、あくまでも底釣りだからである。セット的対処の前に、底釣りのメカの優先順位の方が上なのだ。

セット的な視点でもうひとつ。ズラした場合の下バリの位置がどう変化するか、考えてみる必要がある。セットではよく用いられる水中の模式図に、バラケの拡散範囲とクワセの距離というのがあるわけだが、バラケが垂直に落ちていくならば、ズラせばズラすほど、底面に落ちた粒子の中心からは「遠ざかっていく」。図に書いてみれば分かるが、ハリスのたわみが全くないと仮定すると、数センチのズラシで、かなり真下から離れる。先月号では、「ハリスが長ければ長いほど、ちょっとズラしたくらいでは角度は変わらない」と、勢いで書いてしまったが、底釣りゼミ2005のそれは、「オーソドックスな長さのハリスと比べて」という話であって、都合良くねじ曲げてしまったと反省している（だからといって話は大筋では変わらないが）。上にまだバラケがあるならば、ズラした分だけバラケは底方向に「近付いていく」が、それは単純にズラした長さ分だけだし、ナジみ切った上バリと下バリとの距離はあまり変わらない。ズラせばズラすほど、バラケの拡散範囲の影響から外れていくというのは間違いではないと言えるだろう。ただし、宙のセットでもそうだが、実際にバラケが抜け始めるタイミングと、上ハリスの軌跡をも考えあわせなければならない。締め切ったバラケを使う時以外においては、利用に慎重な判断が求められる考察だと思う。

ナリーズ三月例会場所は、今、人気はなまる急上昇中の、千葉県「釣り堀八十八」。誰もが思う「今日こそは！」。競技開始前の独特のムードが漂う

営業時間　(10月～3月) 平日　午前7時～午後4時　日・祝日　午前6時30分～午後4時
(4月～9月)　平日　午前6時30分～午後4時30分　日・祝日　午前6時～午後4時30分

赤いリボン賞 2,500円

定休日　毎週火曜日（祭日の場合　翌日休業）※第４火曜日と水曜日は連休

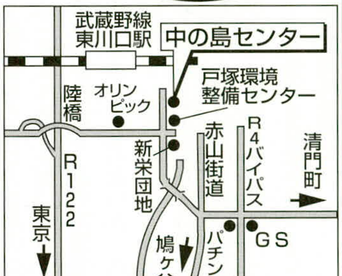
料　金　１日／2,500円　半日／2,000円

規　定　自由釣り池（２面）は、タナはウキ止めからオモリまで１m以上　使用竿　竿8～15尺　水　深　3.5m

※ジャンボ室内鯉つり、金魚つりも楽しめます。

有限会社 つり堀　中の島センター

埼玉県川口市藤兵衛新田254　☎048-295-5194（夜間296-7654）



脱線・スーパーセット！

…つーか、バラケがハリについているとかついていないとか、考えるのはもうナンセンスなのかもしれない。

釣り堀八十八で行われたナリーズ3月例会ゲストの石井昇一氏の浅ダナを見ていて、そう感じた。氏のセットは、抜きだとかナジマセだとか、そういう次元を超越している。僕が見ていたほとんどの投が、結果としていわゆる「抜き」と言われる投だったと思う。ナジミ幅で言って1目盛あるかないか、もしくはゼロか。そんな感じ。以前の僕なら、きっとこういう印象だったろう。

「当然ながらただのイケイケではないし（失礼！）、抜き『なり』のタナの凝縮を考えて釣っているな」

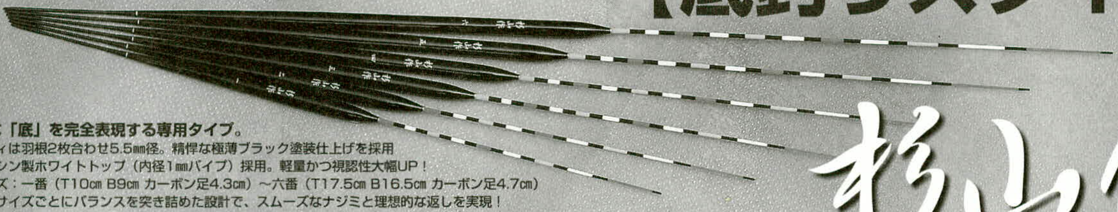
しかし、今回受けた印象は全く違った。

「これは抜きであって抜きじゃない。『抜き』というのは、『ナジマセ』という言葉があってはじめて対になる言葉で、そもそもナジミ幅をあまり重視してないのでは?と思える石井氏は、抜きとかナジませるとか、そんなことはほとんど意識していなかったのではないだろうか。ただ、カテゴリーでくくられるとどうしても『抜き』になってしまうから、本人も抜きだと言っているが、へらのアオリとウケを見ながら、粒子をどう『入れるか（降らせるか）』を重視している氏にとって、正直なところは不本意な筈だ。ナジミ幅では見ていないから、『入れる』のに、バラケがハリについていようが外れていようが関係ない。結果として（意図的に）、何割かはハリに残す時も当然あるだろうが、エサが着水した瞬間から、立体的なイメージでバラケの拡散を考えているのは間違いない」

僕はスペシャルゲストと隣クジを引くことがホントに多いが、今回はかなりの時間を見学に費やしてしまい、驚愕と感動で終わった例会だった。と、3月例会大ズッコケ（ブービー）の言い訳をしておく。

石井昇一氏（手前）を見学している江成。
…って、反対見てんじゃん！
「石井さんはとても面白い方です。ヤバいです」

新作!!
慎重にテストを繰り返した底釣り専用タイプ。
杉山作初の美しいブラックボディで登場！
【底釣りスタイル】



繊細な「底」を完全表現する専用タイプ。
●ボディは羽根2枚合わせ5.5㎜径。精悍な極薄ブラック塗装仕上げを採用
●ダイシン製ホワイトトップ（内径1㎜パイプ）採用。軽量かつ視認性大幅UP！
●サイズ：一番（T10㎝ B9㎝ カーボン足4.3㎝）～六番（T17.5㎝ B16.5㎝ カーボン足4.7㎝）
ワンサイズごとにバランスを突き詰めた設計で、スムーズなナジミと理想的な返しを実現！
●定価1本7,350円（税込）
杉山作
取り扱い店〈五十音順〉
埼玉・越谷 かわせみ（☎048・969・5067）　茨城・下妻 こやの釣具（☎0296・44・1619）　東京・渋谷 サンスイ川釣り館（☎03・3499・5025）
埼玉・入間 へらの三水（☎042・964・2093）　栃木・益子 フィッシングハウスほその（☎0285・72・2215）　神奈川・川崎 鮒仙人（☎044・287・7470）
東京・吉祥寺 丸勝（☎0422・22・8923）　東京・青梅 吉川釣具店（☎0428・22・2467）

タナの凝縮。

段底に話を戻す。

上バリの短いストロークは、実は両バリが長いコンビ*の釣りよりウワズリ対策になる。例えば、下バリ50㎝の段底は、トントンであれば、底から50㎝の位置が中心。上ハリスが15㎝だったら、最高65㎝から35㎝までの落下。バラケは最高90㎝から0までのストローク。

広範囲に撒くのはどちらか、というと、段底の方が凝縮出来るという見方も出来るのである。

そもそも底で口を使いたいへらがいなければ底釣りは成立しないわけだから、逆をいえばウワズリなんて気にしなくていい。でも、気になるのなら、ウワズリ対策になるのは普通の底釣りと段底どっち?という新提案をさせてもらう。ただ残念ながらこんな斬新な発想は、僕ではなく、本家北城氏からの発信である。先日久しぶりにお会いした際にいただいたコメント。

あまり早いタイミングでサワられるのは歓迎しないケースもあるだろう。

しかし、一般的に言われる「釣れ続く地合」というのは、宙底限らずナジミ込みからサワリがあるものだ。渋い時でも、釣れる1投というのはそういうもの。そのサワったへらが必ず食うとは思わないが、つまり、「ハリスが倒れ込む間にへらがいないと釣れない」のだ。これは「追わせて」ではなく、先々月号に書いたように、「厚く寄った」と捉える。渋い時であっても、瞬間的にそうなるのだ、と捉えれば矛盾はない。

「底についてない」底付近の宙のへらを、「クワセの安定」という理由で段底で狙うと言う人がいるが、北城理論の前では、それは宙のへらではない。底にあるエサを「拾う」へらを釣るのは全て底釣りであるから、底のへらだ。どこを泳いでいようが関係ない。ただし、下を向いて「拾いたくない」へらに、無理矢理に下を向かせて（逆立ちさせて）「拾わせた」と言い張るなら、それは北城理論とは違う方向になるだろう。けっこうな頻度でこういう記述は見かける。本当は「へらは宙で食いたがっている」と思っているなら、宙で食わせればいいのだが、イメージは人それぞれ。浅いタナの宙釣りに限って言えば、粒子の蒔き方次第でへらは逆立ちもするのはこの目で何度も目撃しているし、完全に否定するつもりはない。底で釣れた（口を使った）へらが、底でエサを「拾いたい」と感じて行動していたかどうかは北城氏にも分からないことであり、全ては結果論でしかないからだ。

*【江成註】コンビ…段差を大きくとる固形のクワセを用いたセット釣りとあえて区別するために使いました。「バラケにグルテンのコンビ」などと、以前はけっこう使われていた言葉のような気がするんですが…。

ヒゲ段底。

僕はナリーズ正月例会で、はじめて「ヒゲ段底」なる釣りを知った。

普通の段底で、クワセが固形ではなくヒゲ。巻くのか引っかけるのかは全く分からなかったが、とにかくトロロだ。例会場所の武蔵の池では、かなり効くらしいのだ。フッーは、いきなり言われても正月のバッグには入っていないシロモノだが、めったに入れ替えをしない僕のバッグには入っていた。気が向いたら試してみようと思いながら、ウドンの段底を始めた。

当日は、オデコ覚悟と言われるほど厳しい予想だった。僕が引き当てた席はかなり早くからウキが動いたものの、次第に気配だけで落とさなくなってきた。もちろん僕はハリスの角度を疑って、これでもかというくらいズラシを加えていったのは言うまでもない。しかし、そうしてやっと出るアタリがみなスレアタリになってしまう。かといってズラシを戻すとアタらない。間違いなくへらは底にいる。ここで、ヒゲを試す。こぼれた粒子だけを吸いあおり、ハリのついたウドンは嫌われているのではないか、見破られているのではないか…これぞセット的発想だ。ハリのサイズアップと、トントン方向へかなりのズラシ解除を要したが、結果は出た。魚っ気が全く感じられない投が増えるという、もう一段階渋さが上がるまで、ヒゲで順調にカウントを重ねることが出来た。面白い体験だった。ホントに渋いとやっぱり固形の方が安心して待てると思ったが、手の内に入れておいて損はないメソッドだと感じた。

——底釣りゼミ2008　完——

ナリーズ恒例、釣りの後の大宴会であるが…読者の皆さんの心配はごもっとも。
もちろん飲酒運転は法律違反であり、ナリーズでは「立ち小便禁止」とともに「飲酒運転厳禁」も、会則にも謳っている（って、どんな会則だよソレ〜）。つまり、ここで飲みたいメンバーは、翌月曜日の有給取得からはじまって、宴会場から徒歩で行ける宿の手配までして参加しているのだ。宿の確保が出来なければ車中泊。どうしても帰らなければならないメンバーは、一滴たりとも飲まないか、運転代行を呼ぶ覚悟が必要。
涙ぐましい努力？を重ねて参加したメンバーは、準備のない者には厳しい。ジュースで我慢する者の隣で全く遠慮はないし、「一杯くらい平気でしょ？」も、当然ながらあり得ない。万一耐えられずアルコールを口にしそうになったら、全員から罵声が飛ぶ

メジャー開幕。

もうすぐバリバスカップ予選。すでに自宅に案内状が送られて来ている。3月23日現在、まだ申し込みは済んでいないが、今年も参戦の予定。

なんだかんだ言って、今年も何も事態は変わっていない。

あいかわらず歯抜けのウキケースと、作りかけの玉置や万力を見ると、ため息しか出ない。出るだけ無駄という気持ちと、出ることに意義があるという気持ちと、いいかげんにしろという罵声と…。

ここへきてまたひとつ、店を広げてしまった僕。よせばいいのに組合の新聞作りに首を突っ込んでしまった。

さすがにこうなってくると、連載のタイトルを「口先番長脳内日記」みたいな、ちょっとピンク映画チックな感じに変更したくなってくるし、やっぱり誰がどう見たってそろそろ潮時だよな、とも感じる。

どうなる、今年のエナリ。

体が二つ欲しいと思えるのは幸せ!?

トマとエナ。
「○○のことならオレ達に任せろ♡」
このあと江成は大暴走。吐いて倒れるまであっという間の出来事だったらしい…

ナリーズ迷走中!?

毎回多彩なゲストをお迎えして開催されているナリーズ例会ですが、会員よりゲストの方が多いんじゃないか？というのは、さすがに異常事態でもありますので、現在も新入会員は募集中です。

joinus@naries.net

二月例会はいきなりの流会でした。無事開催された三月例会、朝の会長挨拶で、
「釣りは正月例会以来です！ワクワクしちゃう♡」
なーんてトボケたことをのたまう江成会長。相変わらず会長の釣行回数は増えないようですし、釣りの後の宴会では吐くまで飲んでしまうほどの暴走ぶり。ストレス溜まってるんスか？…このままでは新入会員のモチベーションが下がってしまうのではないかと、たいへん危惧しております。
ま、こんなクラブですが、一緒に釣りをしてみたいと思う方がいらっしゃいましたら、是非ご一報下さいませ。
公式ウェブ上からの、「入会フォーム」も便利です。いまだ未完成版ながら、会則や例会報告も掲載されておりますので、是非ご覧下さい。

http://www.naries.net

以上、<ナリーズ：広報>益荒男でした〜。

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名〜75名	60,000円
76名〜100名	65,000円
101名〜125名	70,000円
126名〜150名	75,000円
151名〜175名	80,000円
176名〜200名	85,000円

・仕上がりは黒一色です
・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1. ぐりへら鮒会
2. ぐりへら鮒会
3. ぐりへら鮒会

・番付をインターネットで公開できます（無料）

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴　舟　03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに

転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円〜
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円〜

・8書体、8色を御用意しています
・角印も作れます

取扱店：
柴舟（東京都江戸川区）
03-3613-2727
佐伯釣具店（神奈川県川崎市）
044-911-3722
SANSUI川づり館（東京都渋谷区）
03-3499-5025
フィッシング中原（神奈川県川崎市）
044-711-8266
鮒仙人（神奈川県川崎市）
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com

へら鮒釣りの楽しさを追究し続ける…

へら鮒

Monthly fishing magazine herabuna

No.509
May.2008
5

平成20年5月1日発行（毎月1回1日発行）第43巻 第5号 昭和41年5月4日第三種郵便物認可

春を迎えて、ますます”真剣取材主義”。
今月号も真剣実釣による「真に面白い」記事満載…!!

超攻撃型”全開底釣り“

特集

棚網 久が「牙」を公開!
富里乃堰で決める、
超速攻両ダンゴ底釣り。
全開MAXで、
春の底を楽しめ!!

昭和41年5月4日第3種郵便物認可
第43巻第5号（毎月1回1日発行）
平成20年5月1日発行

伝説の名エサ、再登場。

麩エサが注目を浴び始めたおよそ40年ほど前、
「黒べら」は釣り堀用のカッツケ両ダンゴのエサとして登場した。
以来、かつての名人たちに愛用され、幾多の伝説を残しその名を馳せた。
その後、チョーチン釣りやメーター規定が普及した管理釣り場においても伝説は続く。
「黒べら」の魅力である、まとまりの良さとしっとりしたタッチは、
優れたブレンド用エサとしての地位を確立し、いかんなくその威力を発揮した。
そんな歴史を確実に刻んできた伝説の名エサが、今よみがえる。
「黒べら」第二章、今度はどんな伝説を残すだろうか。

古豪復活

よみがえる、黒べらタッチ。

近日発売予定

マルキユー株式会社
〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

お問い合わせ　本社・桶川工場:048-728-0909　大阪支店:072-824-0909
四国営業所:0877-44-0909　九州営業所:0942-82-0909
ホームページアドレス http://www.marukyu.com/

釣り場でエサに困ったら
iモード・ホームページ
http://www.marukyu.com/i

釣れるヒント満載!!
へら鮒天国

マルキユーホームページ内の「へら鮒天国」では、新鮮な釣果情報を掲載中。あなたのお気に入りの釣り場の情報が、見つかるかも。
http://www.marukyu.com/　マルキユーへら鮒メールマガジンも、お申込はこちらから。

定価 一〇〇〇円
本体九五二円

雑誌 07907—05

4910079070582
00952